



北海道大学大学院工学研究院

後神 進史

goko.shinji@eng.hokudai.ac.jp

核データニュース編集委員の方より、研究から少し離れた堅苦しくない記事をと依頼がありましたので、私の趣味に関して書かせて頂こうと思います。私の趣味は 2 つありまして、バイク (Motor Cycle) と、ボート競技 (Rowing) ですが、後者は下手をすると研究以上に堅苦しく熱くなってしまうので、今回は前者について書こうと思います。

私は 2010 年 4 月に北大の博士研究員として札幌へ転居しました。雄大な自然が残る広大な大地に、たくさんの野生動物が息づく北海道は、バイクに大荷物を積み込んでツーリングをするライダーにとっては憧れの地で、北大での仕事の話が舞い込んで来た際は内心「しめた!」と思いました。

数日間ツーリングに行く時の宿泊は基本的に野宿ですので、荷物は写真の様にかなりの量を積んで行きます。私はキャンプツーリストの中でもツワモノ (キワモノ) の部類に入るらしいので、ここまで積んでいるバカはあまり居ませんが、荷物の量や積み方でも個性があって面白い物です。因みに私の荷物は、テント、寝袋、タープ、机、椅子、コンロ、ガスボンベ、鍋、皿、電灯、調理道具、調味料、食材 (基本的に現地調達)、合羽、修理用工具、害虫スプレー、害獣スプレー (熊もイチコロ)、インバータ (バッテリーの DC12V⇒AC100V。電



ツーリング装備のバイク
CBR1100XX Super Black Bird 改

子機器充電用)、デジカメ、ビデオカメラ、ノート PC (娯楽用です。データ解析しながら走っている訳ではありません)、着替えや生活必需品等。写真の青い箱はクーラーボックスで、中身は勿論ビールと肉 (たまに蟹) です。荷物選びの根拠は「いかにキャンプ場で夜を優雅に過ごすか」ですが、現在キャンプ場で鍋を肴に熱燗を飲む方法を思案中です。

北海道をツーリングする魅力の一つは本州とは一線を画した雄大な景観と、その中を一直線に貫く道路です。前任地の茨城県東海村からは東北地方へよく走りに行き、東北独特の風情も好きでしたが、北海道の郊外はやはり一味違います。知床や摩周湖、十勝平野と言った有名な観光地も勿論立ち寄って堪能しますが、バイクでの旅の醍醐味の一つは道路その物です。この点は乗っているバイク



霧で有名な摩周湖
5回程行きましたが、霧が掛かった試し無し…

の種類によって得意な道も違い、オフロード車で林道を走っている人や、レーサータイプで峠道を攻めている人、そして私の様に高速ツーリング用で平坦な道をひたすら突っ走る人と様々です。アスファルト以外の人工物が一切無い直線道路は、道路の彼方と空が融合していて、天国まで走って行けそうな爽快な気分を満喫できる、バイクならではのオススメスポットです。こう言った場所は空がとても広く感じられ、得も言われぬ解放感に浸れる点も気に入っている所です。



猿払村エサヌカ線
牧草地を貫く直線道路



道道 106 号線 (稚内の南)
サロベツ原野を貫く直線道路

そんな中をツーリングに行く訳ですが、目的地はあまり決めずに出発します。「今回は北の方に行ってみよう。」程度で、強いて言えば目的地は日程最終日に自宅に無事戻って来る、と言う事になります。分かれ道に来たら、地図など開かずに行った事の無い道を優先に気分次第で道を選んで行って、意図的に迷います。「こいつ馬鹿か？」とお思いでしょうが、迷うと色々な物を見る事ができるんです。地図には載っていない隠れた絶景スポット、開拓時代の廃屋や廃墟、地元住民の方の生活等、人工的に整備された観光地を巡るツアー旅行では目に出来ない物をたくさん見る事ができます。

迷子中は主要幹線道路を離れて交通量の少ない道路を彷徨う事になるので、家畜・野生併せて色々な動物に出会います。お馴染みの牛や馬、幌延の原子力機構深地層研究センターの隣にはトナカイも居ます。道路を走っていると、エゾ鹿、エゾリス、キタキツネ（街中にも居ますが、写真は撮れませんでした）と頻繁に遭遇します。道東へ行けば特別天然記念物の丹頂鶴が牧草地を普通に歩いています。ヒグマには未遭遇ですが、あるキャンプ場で朝飯を食べていたら、通り掛かりのマタギの人に「そこは熊の通り道だぞ。そんな所で寝るなんて、あんた度胸あるねえ。」と、お褒めの言葉を頂いた事がありました。そう言う事は寝る前に言って欲しいものです。港を彷徨えば生け簀に蟹が歩いています（海の中を歩いているのを捕獲すると密漁です）ので、2分後には写真の様になって出て来ます。

一頻り迷子を堪能した後は地図で現在地を特定しますが、さっぱり分らない時は地元の方が親切に教えてくれます。何故かお土産に農作物や海産物を貰えたり（これが目当てでは無いです）、ガス欠で困っていたらガソリンスタンドまで車で送ってくれたり、時には泊めてくれる事もあります。その時は、「実はウチに適齢の娘が・・・」と言う話が始まったりする事もありますが、実際にその縁で漁師に転職したライダーも居るそうです。さて、親切な人のおかげで現在地が分ると、温泉に隣接する（ここ重要）キャンプ場を探します。そして迷子中も含めてですが、キャンプ場への道すがら、道の駅や農海産物の直売所、畑の脇の無人販売所等で夕食用の食糧・地酒を仕入れます。日



牛



馬



トナカイ
(家畜)



エゾ鹿



エゾリス



丹頂鶴



ヒグマ(レプリカ)



花咲ガニ この後、筆者で美味しく頂きました

没前にキャンプ場に入ってテントを張ったら、のんびり温泉に浸かります。北海道は至る所に温泉が湧いていて、湯船が広く、無料の所が多いのも魅力の一つです。その後は途中で調達した食材で夕食ですが、私の隣に運良く（悪く）テントを張った人を誘って（或いは誘われて）宴会です。全くの初対面同士なので自己紹介から始まる訳ですが、今回や以前の旅で走って来たルートや、立ち寄った場所、温泉、キャンプ場等でお勧めの所を紹介しあったり、旅先でのエピソードやバイク自体の話題など、意外と話が尽きる事はありません。中にはバイクで旅をする「ライダー」ではなく、自転車で旅をする「チャリダー」や、レアキャラとしては歩いて旅をする「徒歩ダー」（リアカーに荷物を積んで引っ張って歩いています）の人も居て、そう言った人達からは視点の違った話が聞けたりします。職業も学生さんや役所の公務員の方から、果ては密教の僧（山伏）をやっていると言う人も居ました。一方で北海道にはライダーハウスと言う物があります。ここは余っている部屋や古くなった建物等を、旅をするライダーやチャリダー、徒歩ダーに格安で開放して、寝所を提供している所で、大部屋雑魚寝で 0~1000 円／泊位の所です。悪天候等でキャンプするのが厳しい時は利用しますが、ここでも夜はキャンプ場と同じく色々な人から話が聞けます。食堂や居酒屋が併設されていると、そこで飲んでいる地元の方に交じって盛り上がる事もあります。根室で漁師の方の宴会にご一緒した時には、酒飲み放題、カニ食べ放題、昆布持って帰りたい放題の夢の様な夜でした。漁師の皆さんからは北方領土問題について熱く語られましたので、こちらからは原子力の有効性について爽やかに語っておきました。

キャンプ場では日の出の光で目が覚めますが、朝食の支度からテント等の撤収、積み込みまで合わせて 3 時間程掛かります。一見非常に面倒な作業に思えますが、前夜の宴会で飲んだアルコールを抜いて目を覚ますには丁度良い運動になります。準備が整えば走り始めますが、行先は前夜の宴会で聞き出した情報次第です。基本的には前日同様に不明です。そして迷



子になり非日常体験をし、地元の人に助けられ、食材を調達して、温泉に入って、宴会をして寝る。こんな妙なサイクルが何故だか無性に贅沢に感じられます。

駄文にお付き合い頂き、ありがとうございました。